

《港北スピリット》

何事にも明るく素直で前向きに。自分で考え、最後までやり遂げる。

3月18日(土)、なんとなくテレビが点いていて、見ると、王様のランチ。そこには、谷原章介(港北高校OB)さんがいました。今までも、こんなふうに王様のランチ(谷原章介さん)に遭遇することはありましたが、たいていの場合、その後、すぐに出かけるか、チャンネルを変えるかでしたが、その日は、すぐには出かかず、なおかつ、チャンネルも変えませんでした。惹き付けられたきっかけは、谷原さんが3月25日(土)で番組を卒業すると、そのラス前にあたる18日、1972年生まれの同い年であり戦友を自負する藤木直人さんが出てきたので、「ほお、最後なんだ。この二人は、そういう関係なんだ。私より一回り(12歳)下なんだ。という事は、谷原さんは何期生?」ってな感じで、しばらく見ながら計算し、20期生(1988.04~1991.03)であると割り出したところで、大小様々な用件のため、ようやく出かけました。

本日のメインイベントは、18時~20時、港北公会堂です。航空自衛隊「ブルーインパルス」1番機飛行隊長・稲留 仁(いなどめ ひとし)氏の講演「夢の実現について」を聴くためです。この方も、港北高校卒業生です。港北区青少年指導員協議会主催の研修会で、本校の嶋村ただし同窓会長(4期生・1972.04~1975.03)も青少年指導員樽地区会長として深く関わっています。その関係で、私は、幸運にも、開会前に、稲留さんにご挨拶することができました。「ブルーインパルス、聞いたことあるけど、何だっけ?」と言う方、「戦闘機6機(1番機~6番機)で、白い煙を吐きながら、空に、五輪、ハート、☆などを描いたりするアクロバット飛行隊」と言えば、わかってもらえますか。

ホールでは、田村ちえこ同窓会副会長(2期生)と並んで座りました。田村さんから、「稲留さんは、谷原章介さんと同期なんですよ」と聞かされ、内心、「今日は、そういう日なんだなあ~」と思ったわけです。また、ホールには、嶋村会長・田村副会長と面識の無い、港北高校卒業生である〇〇中学PTA会長がいらっしやいましたので、今度は、私が、その仲を取り持ち、港北ネットワークがさらに広がりました。

さて、講演です。「夢の実現について」。いいお話でした。稲留さんは、小学校時代をサッカーに熱中しながら、「将来は、カーレーサーになりたい」と思いつつ過ごしました。中学では、サッカー部がなかったがために陸上競技部に入部。港北高校でも陸上をやり、日本体育大学に進学し、大学でも陸上をやりました。稲留さんには、2歳年上の兄がいます。お兄さんも港北生で、なんとブルーインパルスの2番機パイロットでした。稲留さんは、幼い頃から、常に、お兄さんの後を追い、お兄さんの真似をし、お兄さんを目標にしてきました。しかし、それも港北高校入学までと一旦はなります。お兄さんは、当時から、パイロットを目指しており、進路も

理系でした。その理系が、稲留さんはできない。なので、これ以上、お兄さんの真似をすることはできなくなったのです。稲留さんの進路希望は、「体育の先生になる」ことで、日本体育大学に進学します。が、しかし、私の一回り下、現在44歳です。港北高校だけでなく、どこの高校でも、この前後の年齢の教員は少ない。採用がなかった、少なかった時代です。

大学4年生の稲留さんは、港北高校で教育実習をしましたが、異様な高倍率の教員採用試験には合格できませんでした。就職は、内定を取りました。そこで、稲留さんは考えます。「このまま、夢を捨てて、就職していいのか」この年齢の方々の中には、何年間もかけて、教員になった方もいます。しかし、稲留さんは、このとき、そうは考えなかった。また、このまま、就職しようとも思わなかった。どう考えたかと言うと、「体育の教員になるより、苦手な体育以外の勉強の方が簡単なんじゃないか？もともと、兄の後を追えなくなったのは、理系ができなかったから。苦手な勉強をして、体育の教員以外の進路を切り開いた方が簡単なんじゃないか」と思ったわけです。そう考え始めると、次には、「ん？俺は、もともとカーレーサーになりたかったわけだし、勉強さえできれば、兄と同じくパイロットを目指していたに違いない」となるわけです。

一念発起、内定を蹴り、就職浪人。猛勉強が始まるわけです。稲留さんは、自虐的に、「フリーター時代」と呼びますが、フリーターというのは、もともとアルバイトであることよりも、フリーであることに重点を置いた和製語です。今では、あらゆる形態の非正規社員の総称として、フリーターを使っていますが、それは、現代日本の非正規社員だらけの雇用実態との関係で、語意が変化したものと思われます。なんにしても、当時の稲留さんを正しく表現するのは、フリーターではなく就職浪人だと思います。

猛勉強の末の1年目、不合格。もう、後がない。2浪が最後、絶対に合格する。そして、合格。見事、航空自衛隊一般幹部候補生となりました。そして、月日は経って、とうとう2番機の兄を越え、1番機飛行隊長に。稲留さんは言います。「あの2年間がなかったら、今の自分はいない。内定を蹴り、結局パイロットになれなかったらという不安。結局、合格できずに、路頭に迷っている自分。自分がそうになっている夢を今でも見る。不安との闘い。こんな無謀な自分を信じて、好きにさせてくれた親への感謝。世間体の悪い兄で、妹には嫌な思いをさせたと思う。でも、間違いなく、あの2年間が今の私を支えてくれている」「大きな夢を持つこと、小さな目標を持つこと、自分を信じること、粘り強く努力すること。行動しなければ、何も始まらない。何も起こらない」。

つまりは、「理想を高く（教育目標より）」。そして、港北スピリットです。《私の言葉》も言いたいことは同じことです。

《「じっとしていても何も変わらない。とにかく何かを始めよう」「手と足を使って考えよう」「考えたら行動しよう」「一流になろう」「GRIT（やり抜く力）」》

皆さん、やり抜いてください。やり抜いて、一流に、幸せになってください。

（私は、高校3年の1年間、稲留さんとは違って、何もできなかった。やはり、不安でした。やはり、路頭に迷っている自分を夢に見ます。1校しか受けなかった国文科だけ合格。今の私があるのは、何もできなかったとは言え、やはり、あの高校3年の1年間だったと思っています。）